

マカフィー

McAfee Enterprise Mobility Management

セキュリティもBYODもトータル実現 MDMの正しい選び方とは？

スマートフォン／タブレットの企業導入に必須のMDM (Mobile Device Management) だが、MDM選びで大事なポイントとは何だろうか？ その答えは「トータルセキュリティ」——。マカフィーの「McAfee Enterprise Mobility Management (EMM)」ならセキュリティ対策、BYOD、さらにはPCも含めた一元管理までトータルに実現できる。

MDMの選び方が分からない——。そんな悩みを抱えるIT管理者の方は少なくないかもしれない。現在マーケットには数多くのMDMが氾濫。しかも、MDMの基本機能はiOSやAndroidなどのOS側に依存する部分が多く、各社の製品を見比べても、あまり違いが分からないからだ。

しかし、もちろんMDMは「どれを選んでも同じ」というわけではない。少し視野を広げて比較してみれば、マカフィーのMDM「McAfee Enterprise Mobility Management (EMM)」が抜き出ていることを発見できるはずだ。

最大の違いは、セキュリティへの取り組みである。Mobile Device Managementの名が示す通り、MDMは資産管理やコンプライアンスなどの“管理”が主たる役割。十分なセキュリティ機能は備わっていないが、ユーザー企業が望むのはセキュリティも含めたトータルソリューションである。

そこでMcAfee EMMにはAndroid向けのアンチウイルス製品がバンドル。さらに今後、Webフィルタリングやアプリケーションのブラックリスト、メール暗号化などの機能も追加していく計画

だ。「セキュリティベンダーにしか実現できない付加価値を提供できるのが、MDM専門ベンダーとの大きな違いです。管理にプラスしてセキュリティまで、モバイルデバイスを安心かつ効率的に利用できる環境をトータル提供していきます」と同社の松久育紀氏は語る。

BYODを前提に開発されたMDM PCも含めた一元管理で工数削減

McAfee EMMの特徴を説明するうえで、この“トータル”は重要なキーワードになる。例えば私物端末を業務に活用する「BYOD」への関心が高まっているが、McAfee EMMでは私物端末も会社支給の端末もトータルに管理できる。「BYODは間違いなく日本でも浸透していくと考えていますが、McAfee EMMはBYODを前提に開発されています」(松久氏)。

BYODにおける課題はまず、セキュリティポリシーの配布などの初期設定だが、McAfee EMMでは「セルフサービス・プロビジョニング」を採用。IT管理者が私物端末をいったん回収するなどの必要なく、従業員側で初期設定が行えるようになっている(図表)。ま



マカフィー
マーケティング本部
プロダクトマーケティング部
スペシャリスト
松久育紀氏

た、端末にタグ付けすることで、私物と会社支給とで異なるセキュリティポリシーを適用することも簡単に可能だ。このほか、iOSとAndroidは当然のこと、Windows Phone、BlackBerry、webOS、Symbianと、各種モバイルOSをトータルにカバーしている点も頼もしい。

さらに、世界3万5000社以上で導入されている統合管理ツール「McAfee ePolicy Orchestrator (ePO)」と連携し、モバイルデバイスだけでなく、ノートPCやデスクトップPC、サーバーまでを“誰が”というユーザー視点で一元管理できるのも特徴だ。このためモバイル用の管理ツールを個別に導入するのと比べて、全体の管理工数は大幅に削減できる。

「トータルセキュリティがマカフィーのコンセプト。モバイルの普及などを背景にユーザー企業の実環境は大きく変わろうとしています。マカフィーなら、すべてを一元化できます」と松久氏の言葉は非常に心強い。

お問い合わせ先

マカフィー株式会社

TEL : 03-5428-1100

URL : <http://www.mcafee.com/japan/enterprise/emm/>

図表 McAfee EMMのセルフサービス・プロビジョニング

